

【生理検査研究班】

日当直時の生理検査

前橋赤十字病院

有馬 ひとみ

休日や夜間当直勤務体制のなかで、検体検査のみならず、生理機能検査分野の心電図検査や超音波検査等を実施してほしいとの臨床側からの要望も多い。現在、日当直時の生理検査業務としては心電図検査を実施している施設は多いと思われるが、日頃、心電図検査に従事していない臨床検査技師や経験の浅い臨床検査技師からは、不安の声を聞くことも多い。日当直時の心電図の依頼は心臓疾患を専門とする医師からだけではなく、専門外の医師からの依頼もあり、救急外来や病棟へ心電図をとりにいくと、医師から心電図の波形はどうか？と問われたという経験がある方もいるのではないだろうか……。今回は、心電図の簡単な判読方法、特に緊急を要する心電図について解説する。

また、心電図検査は電極の装着が正確に行えれば、誰が記録しても同じ波形が記録出来る。しかし、病棟でベッドサイドに沢山の輸液ポンプや医療機器がある場合には交流障害の混入があり綺麗な波形の記録が困難となったり、救急外来で体動が激しい患者さんの検査に苦勞することも多い。正確な心電図判読のためには出来るだけ綺麗な心電図波形を記録することが大事であるので、アーチファクトや筋電図混入時の対応など心電図検査の技術的なポイントを紹介する。

近年、救急外来や夜間休日の病棟から検査項目の追加、特に緊急時の超音波検査を臨床検査技師に実施してほしいと要望されている施設もあると思われる。

超音波検査は心電図検査とは違いある程度の熟練を要するため、人員的な問題もあり実現できていない施設が多いと思われるが、救急外来で夜間休日に臨床検査技師が超音波検査を行うことのメリットもある。実際に夜間休日の超音波検査を実施している施設は少ないが、その取り組みを実施している施設の紹介や、「日当直時の生理検査」として各施設がどのような業務を行っているのか等の、現状も報告したい。